

2019年度 学校経営計画及び学校評価

1 教育目標

- 確かな学力を身につけ、主体的に学び考えることのできる知的探究心にあふれた人間を育成する
- 心も体も健全でたくましく、社会の担い手にふさわしい知性と品格を身につけた心豊かな人間を育成する
- グローバル社会における文化の多様性を理解し、世界を視野に幅広く活躍できる人間を育成する

2 中期的目標

1. 立命館コースの特色化を図る高大連携教育の充実
2. 生徒の多様な進路希望に応える進路指導体制の強化
3. 主体的に学ぶ学習者の育成を目指す教育方法の改善と教員研修の充実
4. グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す英語教育・国際教育の充実
5. 理系大学進学者の育成を目指す理科・数学教育の充実
6. 生徒確保に向けた入学政策・入試業務の強化

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>① 国公立大学合格9名・関関同立47名の合格で過去最高の入試結果となった。提携校推薦のための検証試験は数学において、推薦基準に全員到達した。</p> <p>② 授業評価アンケートにおいて、高校は2回目で過去最高の得点率で、概ね授業に関しては満足度が高い状況となっている。特に、数学での伸びが顕著である。今後も授業の質の向上と生活指導との連携を大切にしていきたい。</p> <p>③ 保護者アンケートの結果では、中高ともに否定的な評価が50%を超える項目はなく、特に「入学させて良かった」の評価が80%以上であった。今後とも丁寧な保護者対応を継続したい。</p>	<p>① 委員会の体制 (学)立命館 常務理事1名 立命館大学教授1名 中学校・高等学校保護者会役員1名 地域の有識者1名</p> <p>② 委員会の実施日 2019年10月9日(水) 2020年3月25日(水)中止</p> <p>③ 意見交換での意見 チェックテストについては大変良い取り組みだと感じる。 数学が苦手だからと言って文転せず理系を志望してほしい。 生徒の落ち着きがよくわかる。 先生方の頑張りを感じ、地元からの中学生の増加を期待する。 コース変更基準は努力が報われると感じさせることが大切 など</p>

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 立命館コースの特色化を図る 高大連携教育の充実	(1) 学力の向上 (2) 特色教育の充実 (3) 高大連携企画の実施 (4) 読書・文章作成能力	(1) セミナー型の授業・自主ゼミなどの実施・大学入学後の学びに対応した大学入学前指導の実施 (2) 課題研究・立命館 DAY・コース合宿などの実施 (3) 平和についての連携企画・BKC 研修・学生懇談企画などの実施 (4) 月一新書・小論文指導・志望理由書講座などの実施	(1) GTEC・TOEFL 五ツ木模試偏差値 ベネッセマーク模試偏差値 数学・物理・化学・英語の補習・フィリピン語学研修参加人数増に取り組む (2)(3) 「深く考えること」を基準として生徒の日ごらの様子を観察する (4) 年間読書冊数増と小論文評価の向上を目指す	(1) GTEC480 (6割) を超える生徒は年々増加している。TOEFL ITP500 越えは数名。高校で40を割る生徒は内規の効果で激減。 (2)(3) どの企画も積極的に取り組む様子が見られモチベーションの向上につながるものとなった (4) 月1冊のペースは概ね達成。小論文の評価は普通レベルの成績の者が多い	(1) チェックテストなどによる中学の強化。高校での自主ゼミと授業との連携強化 (2)(3) 課題研究の仕上げを丁寧にする (4) 継続実施と効果を検証できる仕組みづくり
2. 生徒の多様な進路希望に応える 進路指導体制の強化	(1) 進路指導体制強化 (2) 国公立大学進学数向上 (3) 学力推移の分析による学力向上方策の検討と進路指導スペシャリストの育成	(1) 迅速な情報共有と定期的な進路懇談の実施 (2) 受験可能生徒への個別指導強化とセンター試験対策の強化 (3) 模試分析と授業・進路企画との連携校内進路指導研究会の充実と外部説明会の積極的な参加奨励	(1) 目標合格者数 国公立大学20名 関関同立30名 産近甲龍50名 (2) センター試験受験者数と得点率 (3) 模試の偏差値 研究会・参加者数・外部説明会回数など	(1) 国公立の目標達成は厳しかった。関関同立・産近甲龍の合格者は過去最高の実績が出すことができた。 (2) 5教科の受験者数は61名と昨年より20名増で、平均点は前年度を大きく上回り、得点率も文系科目を中心に向上した。 (3) 前年度と比べて5教科型で1.4ポイント、私立型で2.2ポイント向上していた。	(1) 個別指導の徹底と5教科文系・私文からの国公立大学合格を出す (2) 可能性のある者への積極的受験指導と5月の早期センタープレ実施 (3) 年内・年明けの計画的な受験方法の実施
3. 主体的に学ぶ学習者の育成を目指す教育方法の改善と教員研修の充実	(1) ICT活用 (2) 新学習指導要領対応 (3) 授業改善・研修	(1) 中学1年生のタブレット利用の場面拡大 (2) 課題研究・地球市民・理科実験を中心として「探求」に向けての準備 (3) ねらいやテーマが明確な研究授業の実施	(1) 中学タブレット端末と電子黒板活用 (2) 授業評価アンケートの該当項目満足度と保護者アンケート満足度 (3) 生徒アンケート満足度	(1) タブレット・電子黒板の利用は充実してきている。特にClassiの様々な場面での利用定着が見られた。 (2) 授業評価アンケートについて中学・高校ともに満足度上昇。保護者アンケートについては授業満足度昨年より上昇 (3) 中高とも得点率は微増で概ね高評価である。	(1) Classiの高校での利用拡大 (2) 新学習指導要領に対応した指導内容具体的内容検討 (3) 授業改善に向けた悉皆研修

4. グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指す英語教育・国際教育の充実	(1)立命館コースでのイングリッシュキャンプ (EIC) (2)ネイティブ教員による授業と習熟度別授業 (3)留学生との交流 (4)海外研修プログラム促進	(1)中学から高校 1 年までの EIC の継続実施 (2)中 1 での 6 時間中 3 時間のネイティブ教員による授業展開 (3)留学生を活用した異文化理解や英語学習の取り組みの実施・ネイティブ教員を活用し、国際プログラム、生徒募集における生徒との交流の促進 (4)中期留学の実施	(1)～(4) ・英語検定(高校卒業時) 2 級レベル 準 2 級レベル 3 級レベル ・英語検定(中学卒業時) 準 2 級レベル 3 級レベル ・五ツ木・模試・GTEC の成績 ・留学幹旋の実施 ・トビダテ留学 Japan の採用人数増加	(1)～(4) ・英語検定(高校卒業時) 準 1 級の合格者を出すなど 2 級・準 2 級・3 級にも多数合格 ・英語検定(中学卒業時) 準 2 級合格・3 級合格者は十分目標達成 ・オンライン英語授業実施 ・留学幹旋実施 ・トビダテ留学 Japan に 2 名選出 (5 期連続)	・EIC の充実実施。 ・学力につながる中学ネイティブ教員授業展開の工夫 ・オンライン英語の回数確保と効果のある実施 ・中学の英語力向上のためのアウトソーシングの検討
5. 理系大学進学者の育成を目指す理科・数学教育の充実	(1)理科教育プログラムによる授業改善 (2)国公立大学受験対応のカリキュラム実践 (3)立命館大学理系学部進学に対応した理科教育の充実	(1) 授業内容と実験との関連明確にした授業展開 (2) 基礎科目の 1 年で実施による国公立対策開始 (3) 物理・化学の全範囲をおさえ成績向上を図る	(1) 模試の成績 (2) 受験対応できるスピードでの実施 (3) 特に化学のプレイスメントテストの向上	(1) 高 2 では理科模試での結果前年度に比べて 1 ポイント向上 高校は実験を組み込んだ授業が展開できた。	(1) 実験の有効実施 (2) 進捗の見直し (3) 物理・化学の興味・監視を深めさせる工夫と演習による成績の向上
6. 生徒確保に向けた入学政策・入試業務の強化	(1)女子生徒・理数系生徒の確保 (2)中学校・塾訪問強化と最新情報に基づいた業務推進 (3)入試方法と連動した広報活動 (4)データ分析と情報処理の効率化	(1) 傾斜配点を行い理系教科の得意な生徒を獲得する (2) 効果的な塾・学校への訪問 (3) 奨学金制度による学力層の高い生徒の確保と入試日程の工夫 (4) 過去データをもとに合格ラインなどの工夫	(1)～(4) 中学 100 名・高校 360 名 立命館コース 120 名 塾訪問 1200 回	(1)～(4) 中学 124 名・高校 322 名 中学 AR コース・高校アドバンスト英数 α ともに定員確保 立命館コースは理系クラスが初年度から定員確保。評定 4.0 を超える入学生の大幅の増加。	・女子の確保を目指す方策検討 ・中学校・高校別の塾訪問の強化 ・正確なデータ分析に基づく広報活動 ・入試部内の情報処理の効率化 ・高校立命館コースの理系クラス募集
7. その他	(1)基本的生活習慣の確立 (2)分掌機能の活性化	(1)朝の読書指導の徹底 身だしなみや挨拶などの組織的な指導の充実 教職員間の情報交換と共有 (2)分掌からの提案重視	(1) 生徒の社会人としての資質の向上と安全な学校生活 (2) 教員の活動充実	(1) 朝読は定着 クラブの生徒による登校指導と挨拶強化 (2) 立命館教育推進部と進路指導部から大学との連携プログラムや進学指導に関して積極的な提案があった	・運営委員会の会議での意見効果を大切に ・運営委員からの提案を積極的に行える雰囲気づくりをする